



# にしじ

## 新年のご挨拶2017

..... P2~7

- 古味勉企業長 ..... P2
- 吉川清志病院長、森本雅徳副院長 ..... P3
- 山下元司副院長・こころのサポートセンター長、島田安博副院長・医療安全管理センター長 P4
- 西岡豊副院長・地域医療センター長、森田荘二郎副院長・医療情報センター長 ..... P5
- 西岡明人がんセンター長、山本克人循環器病センター長 ..... P6
- 西田武司救命救急センター長、林和俊総合周産期母子医療センター長 ..... P7
- 高知医療センター イベント情報 ..... P8

新年のご挨拶

# 1

JANUARY 2017 Vol.135



新年あけましておめでとうございます。本年も高知医療センターならびににしじをどうぞよろしくお願いいたします。

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —

# 新年のご挨拶

2017

# 迎春



## 企業長 古味 勉

新年あけましておめでとうございます。

皆さまには健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、熊本県や鳥取県などで強い地震による災害が発生し、改めて災害への備えを考える年となりました。当院においても昨年12月には、四国各県の県立中央病院との災害時相互応援協定を締結するなど広域連携体制の強化を図ったところです。今後も災害拠点病院として、南海トラフ地震などの災害発生時の役割と対応を常に点検し、病院機能を確保するための備えを万全にしていかなければならないと考えています。

また、当院はDPC対象病院の入院医療費算定に用いる、機能評価係数Ⅱの数値で平成28年度も前年度を上回る評価を得ることができました。

この評価は過去1年間の実績に基づき急性期病院の医療機能の充実度が評価されたものであり、当院スタッフの日々の努力はもとより地域の皆さま、関係機関の皆さまのご支援・ご協力の賜物と感謝しております。

さて、現在高知医療センターでは平成28年度から32年度までを計画期間とする新たな経営計画を策定し、地域包括ケアシステムの整備など医療制度改革が進められる中での、当院の将来像を「県民、市民から信頼される高度急性期病院として高水準の医療

をより多くの患者さんに提供する」こととして、医療機能の充実強化と安定した経営基盤の確率に取り組むこととしております。

本年については、平成27年秋から新がんセンターとして当院本館西隣に整備を進めてきました、がん患者さんの心と体をトータルにサポートする施設を「がんサポートセンター」として、4月から段階的にオープンいたします。

続いて本年夏には、入院治療を受ける患者さんがより安全に、安心して治療を受けることが出来るように、また、日常生活への早期復帰が出来るように支援する組織として(仮称)入退院支援センターの開設を予定しております。

こうした新たな施設、機能を最大限に活用し、地域の皆さまの期待に応えられるよう、職員一同、さらに研鑽を重ねてまいりますので、本年も高知医療センターをよろしく願いいたします。

結びに、皆さまのご多幸、ご健勝を祈念しまして、新年のご挨拶といたします。



## 病院長 吉川 清志

平成29年、明けましておめでとうございます。

高知医療センターは、平成17年3月に県市の2つの中核病院を統合して開院以来、「医療の主人公は患者さん」を理念として自治体病院の使命を果たしてまいりました。あれから早くも11年10か月の月日が流れたのかと感慨深く思います。

昨年度はCCU(冠疾患集中治療室)、無菌室の整備を行い、今年度は高知医療センター経営計画に基づき、医療機能の充実強化と安定した経営基盤の確立のため職員が一丸となって精励しています。来年度は4月から「がんサポートセンター」(新がんセンターの名称)の運営を開始します。「がんサポートセンター」は、検査機能としてPET-CT1台、SPECT2台、治療機能として高精度放射線治療装置2台、外来化学療法ベッド35床に加えて相談支援機能を有し、外科・内視鏡手術とともに総合的ながん診療を行い地域がん診療連携拠点病院の役割を果たします。加えて「入退院支援センター(仮称)」を立ち上げ、患者さんのスムーズな入退院を支援してまいります。

私たちは国の医療政策である地域医療構想や地域包括ケアシステムに則り、高度急性期・急性期医療機能を強化し、医師・職員の確保、職員の自己研鑽・他者貢献の支援、地域の医療機関や関係諸機関との

連携により、高知県の「日本一の健康長寿県構想」に寄与してまいります。そのため患者さんには思ったよりも早期の退院や転院を、地域の医療機関には逆紹介をお願いすることがありますのでご協力ください。これらを実現するために職員のやりがいを大切に、病院としてワークライフバランスの推進や毎年約50人生まれる赤ちゃんの育児支援を継続します。

幸せの根本は息災です。無病息災でなくても生活習慣(食事、運動、睡眠、適正飲酒、禁煙など)を整えて、病を持ちながらも90歳を超えてなお活動的に生きられた、やなせたかしさんを見習いたいものです。気をつけていても、突然あるいは年齢とともに病気が追いかけて来ますので、その際には医療センターはチーム医療により全力で治療させていただきます。

本年も皆さまのご支援ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 副院長 森本 雅徳

皆さまにおかれましては、健やかに新しい年をお迎えになられたことと思います。

医療センターは、干支でいうと開院後一回りといったところですが、この間、医療を取り巻く環境の変化に対応すべく、外観のみならず内部の改築も重ねてきました。29年度には、がんサポートセンターがオープンし、高知のがん診療がさらに進歩するものと思われます。これらの歩みはひとえにこれまで医療センターを支えていただいた皆さま方のおかげであり、厚く感謝申し上げます。

臨床研修においては、昨年10月、NPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)の機能評価を受審し、臨床研修管理センターを中心とした臨床研修への取り組みが高く評価されました。しかし、指摘されたことも何点かあり、これらを改善し、医療センターにおける卒後臨床研修をさらに充実させるのと同時に、今年度は卒後臨床研修管理センターの活動の幅をさらに広げたいと思います。

医療秘書(医師事務作業補助者)については、目標としていた15:1の配置を達成し、今後は医師事務作業補助の質の向上を図り、医師の負担軽減に繋がりたいと考えています。

ベッドコントロールにおいては、時に満床等でご迷惑をおかけしているところですが、一定の余裕をもったベッドコントロールを行い、できるだけ多くの患者さんを受け入れられるようにしていきます。このためには、地域の医療機関の方々のご理解・ご支援が欠かせません。当院は地域の医療機関の方々への支えにより成り立っています。昨年は選定療養費も設定したところで状態の落ち着いた患者さんは、かかりつけの先生にお願いして、かかりつけの先生と一緒にみさせていただく方針としています。今年もこれまで築いていただいた連携をさらに強固なネットワークとして発展させたいと念じています。

この1年が皆さまにとって明るい年となりますことを祈念申し上げ、新春のご挨拶とさせていただきます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 副院長・こころのサポートセンター長 山下 元司

新年明けましておめでとうございます。こころのサポートセンターはもうすぐ開設5年を迎えます。児童精神科は、開設以来同じ精神科医師で運営してきましたが、今年中にスタッフの入れ替わりがあります。ライフサイクルの変化は仕方がなく、私自身これまでたくさんの精神科医を見送ってきましたが、この病院においてもまた仲間を見送ることになります。退職する医師については、今後の活躍を祈りたいと思います。

ところで、高知県は精神科医師が不足することが長く続いてきましたが、昨年後半に精神保健指定医（以下指定医と略）の3名が、資格取り消しになりました。

精神科医療では、自分の意思で治療を受けない患者さんも多いことから、指定医の業務が必要で、3名の指定医の減少は高知県内の精神科医療の実務上支障をきたし始めたと感じます。これと並行して、相



模原の障害者施設での殺傷事件を契機に、措置入院が必要と事務的に判断される方が増えています。この場合、入院受け入れをする病院以外に、勤務する指定医2名の診察が必要です。しかしそれに応じてくれない精神科医も多いため、私のところに措置入院の診察依頼が来ることが多く、平均値でいえば毎週1件、最大値でいえば連日措置診察に出かけることもあります。成人の精神科担当医師は私1人だけなので、病院を空けることが多いのは困ったことです。

成人の精神科医師の確保について、候補者はいるのですが、もし当院に勤務することになれば、現在勤務している病院に大きな影響を与えるので、転勤が実現せずにいます。現在、指定医を申請している精神科医師が指定医資格を取得するようになれば、人材不足は少し改善するかもしれません。



## 副院長・医療安全管理センター長 島田 安博

新年明けましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になり誠にありがとうございました。

新年早々ではありますが、日常診療のジレンマについて書いてみようと思います。高知県は日本一の高齢者県と言われて久しいのですが、がんの領域でも日々実感しながら診療に当たっています。高血圧、糖尿病、心臓病、脳血管障害だけでなく、いわゆる認知症を伴ったがん患者も決して珍しくなくなりました。高齢者のがん患者をどこまで積極的治療を行うかという課題に対して、手術療法は確実に進歩し、安全な根治手術を実現できるようになってきました。最近の内視鏡切除や、鏡視下手術は、低侵襲性を謳い、高齢者などの高リスク患者さんにまで適応を拡大しようとしています。抗がん剤もかつての副作用のみの治療から一定の目に見える治療効果を若年者で実現でき、高齢者にもその恩恵を拡大しようと挑戦が続けられています。しかしながら、目の前の元気なおじいさん、おばあさんにこのような治療を勧

めて良いか、何を治療によりもたらすことができるか、臨床家のジレンマです。医学の不確実性に加え、高齢者という曖昧で確実な高リスク患者に対して、最新とされる医療が期待される利益をもたらしているか、逆に害を及ぼしているのではないかと感じています。QOLという言葉が臨床でも古くから使われています。高齢者、お年寄り、おじいさん・おばあさんのQOL、治療目標はなんのでしょうか。80歳を超えたひとりの人間の価値観、生へのこだわりの多様性は、臨床家にとって大変興味深く、示唆に富む話ばかりです。その人らしく というよりも その人なりの人生を聞くにつけ、臨床医になり良かったと思う外来診察室での風景です。

さあ、酉年の今年、どんなおじいさん、おばあさんのお話が聞けるか楽しみです。



## 副院長・地域医療センター長 西岡 豊

明けましておめでとうございます。皆さまこやかに新春をお迎えのことと存じます。

日頃は、高知医療センターとの医療連携にご理解とご支援を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

昨年も地域医療センターでは、前方・後方連携業務を推進し、地域の医療機関との連携がより迅速・円滑に行われるように配慮するとともに、連携強化に向けて取り組んでまいりました。

より顔の見える開かれた地域医療センターを目指して、昨年4月からの半年間で60件を超える医療機関訪問を行い、たくさんの意見交換を行うことができました。訪問時には、たくさんの方々にお世話になり、ありがとうございました。また、オープンシステム登録医に登録していただきました医療機関の先生方も633名に達しました。おかげさまで、昨年も紹介率(60.8%)、逆紹介率(89.65%)ともに高い水準を維持できました。

さて、平成28年度診療報酬改定に伴い、500床以上の地域支援病院である当院は、紹介状なしで受診される患者さんに対して、さらなる選定療養費としての徴収を義務化されました。加えて、中山間地域の急激な人口減少の影響もあり、初診の患者さんの受診は減少傾向が続いています。当院の医療機能を十分に役立てるためにも、地域連携室を通じての患者さんのご紹介をよろしくお祈いします。

また、診療報酬改定では、退院支援に関する評価

の充実の視点から、退院支援加算Iが新設されました。これにより、退院困難な患者さんの早期抽出と面談、多職種によるカンファランス、病棟への退院支援職員の配置、医療機関間の顔の見える連携の構築、介護保険サービスとの連携等の厳しい算定要件が設けられましたが、この取得に向けて取り組むことにより、院内スタッフの協働を推進し、より良い退院支援のあり方を構築することができました。そして地域医療連携がより強化され、患者さんの流れが円滑になることが予想され、高知医療センターとしての本来の使命である高度急性期医療がより推進されるものと期待しています。

2025年問題に向けた地域医療連携の変化の中で、今年も地域医療支援病院の中の地域医療センターとして、さまざまな活動の中で、地域の医療機関から顔の見える開かれた地域医療センターを目指して精一杯の努力を重ねてまいりたいと考えております。旧年中と同様、今年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 副院長・医療情報センター長 森田 荘二郎

謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年は年明け早々から大事業が山積みしております。

まず2月には厚生労働省の特定共同指導を受ける可能性があります。1月に高知県での対象病院が決定されます。当院は、2007年に一度指導を受けていますが、その時に指摘していただいた点はもちろんのこと、保険診療上新たな課題も抽出しました。その課題を一つずつクリアしていくことで、病院の医療の質改善にも繋げられるよう、職員一丸となって取り組んでおります。

次に、新がんセンターが稼働を開始します。建設も滞りなく進捗しております新がんセンターは、「がんサポートセンター」と名称も決定し、3月下旬にはオープンセレモニーを開催すると同時に内覧会も予定しております。その後、4月上旬には引っ越しを行い、3階外来化学療法室、4階がん相談支援センター・緩和ケアセンターは4月中旬より稼働する予定です。1階高精度放射線治療、2階PET-CTは建物が完成してから機器搬入・テスト運用を行いますので、PETは6月初旬頃から、高精度放射線治療は秋頃からフル稼働できる予定になっております。がんサポートセンターが高知県のがん治療に益々貢献できますよう、関係職員により運用等の検討を進めております。

3つめは、入退院支援センターの立ち上げです。がんサポートセンターに本館の機能が移動した跡地に、

入退院支援センターを新たに設立します。「患者さんに納得して、安心して医療を受けていただく」ことをmissionに掲げ、患者さん、ご家族の皆さんが入院・手術等についてよりよく理解し、入院前の安全性を確保し、安心して療養生活が営め、退院支援も含めた日常生活への早期復帰を目指すことを目的としています。標準化された検査・入院・手術の説明や、それらに関連したマネジメントを、専任者が多職種と連携し、落ちついた面談室で説明が受けられます。既存の施設の改修工事が整い次第、8月下旬オープンを目指し、現在業務内容の確認、運用等の詰めに入っています。

このように、今年も高知医療センターにとってさらなるステップアップを目指す年になります。常日頃からお世話になっております関連医療機関の皆さま方、そして高知県民の皆さま方に喜んでいただける病院作りを進めて参りますので、引き続き温かいご支援・ご指導をいただきますよう、お願い申し上げます。



## がんセンター長 西岡 明人

新年明けましておめでとうございます。旧年中は高知医療センターがんセンターに対しまして格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。一昨年の4月からがんセンター長を拝命して2年弱、この間大過なく職務を全うすることができましたのも関係各方面の方々のご協力とご支援の賜と感謝しております。

高知医療センターは、2006年6月に制定されました「がん対策基本法」に則った体制の構築に努め、2008年2月に高知県で初めての「地域がん診療連携拠点病院」の認定を受けました。がんセンターでは地域がん診療連携拠点病院として、また、高知県におけるがん治療の最後の砦としての使命を全うするべく診療体制の整備・充実、診療実績の向上に努めております。

皆さますでにご存知と思いますが、本年オープン予定の「新がんセンター（仮称）」の正式名称は、「がんサポートセンター」と決まりました。また、PET-CTや2台の高精度放射線治療装置の導入、外来がん化学療法室およびがん相談支援センターその他の充実も着々と進んでおります。本年1月中旬には4階建ての建築主体工事が完了し、各種医療機器を搬入・設置後の3月末にオープニングセレモニーを予定して

おります。そして、4月中旬には3階の外來がん化学療法室と4階の「がん相談支援センター」、「がん患者サロン」および「緩和ケアセンター」が順次、診療・相談を開始します。なお、2階のPET-CTは現在のところ6月初旬頃を、また1階の高精度放射線治療装置は7月と10月の稼働開始を予定しております、こちらは今しばらく時間をいただくこととなります。

このようながんサポートセンターの整備をはじめとして、高知医療センターがんセンターでは、これからもより高度で充実したがん診療を提供できるように頑張っていく所存でありますので、県民の皆さま、医療機関の皆さまをはじめとする関係各方面の皆さまには今年も変わらぬご支援を高知医療センターとがんセンターに賜りますようよろしくお願い申し上げます。



## 循環器病センター長 山本 克人

新年明けましておめでとうございます。旧年中は当循環器病センターに対し深いご理解と温かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。

循環器病センター長となってから、はや3回目の新年のご挨拶となりますが、その間にも当センターは年々発展し成熟している様に思います。新しい治療法である経皮的動脈弁移植術(TAVI)は、当院での開始から2年を経過しましたが、経験を重ね順調に高度技術の提供ができております。TAVIについてはチーム医療の重要性が特に言われていますが、これを進めることにより他の治療法についても、急性期医療からリハビリテーションに至るまで、以前よりも増して各職種が連携し協力する体制が強固になった印象もあります。病棟総回診などをしてさまざまな患者さんを診察しておりますと、このチーム医療の効果を感じることができ、うれしく思います。

さて、しばらく不整脈専門医は私一人でしたが、昨年夏よりは不整脈に対するカテーテル治療のできる医師が定期的に来ていただけるようになりました。これにより中断しておりました心房細動などに対するカテーテル・アブレーションにも対応できるようになり、早速これを再開しております。また、エキシマレーザー冠動脈形成術(ELCA)などの新しい技術もいち早く積極的に取り入れており、冠動脈疾患に対する

治療もますます充実しております。これらにより、これまでも増して冠動脈疾患、不整脈、弁膜症など幅広い分野の疾患に対し、薬物治療からカテーテル治療、開心手術にいたるまでのさまざまな専門的な治療を、十分に提供することができているかと思えます。

当センターのスタッフは、皆元気でやる気があり、技術力も非常に高いものを持っておりますが、それだけではなく常に患者さんに寄り添った医療を心掛けております。そのようなスタッフがチーム一丸となり、今後も、当センターの4つの特徴である(1)チームによる最適な循環器医療の提供、(2)迅速で高度な循環器救急医療の提供、(3)体に優しく安全な循環器疾患治療の提供、(4)高度最先端医療の提供をさらに発展させ、頑張りたいと思います。本年も循環器病センターに更なるご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



## 救命救急センター長 西田 武司

新年あけましておめでとうございます。

私は、2016年10月より救命救急センター長を拝命しました。前任の喜多村先生がご尽力されてきた体制をさらに発展させていきたいと思ひます。ぜひともよろしくお願ひいたします。

高知県は東西に長い地形であり、山岳地形が面積のほとんど(山地率8~9割)を占めており、山での事故や山岳地での急病人の発生があります。地形的特徴からも救急搬送に時間を要する原因となっています。また四万十川・仁淀川・吉野川などの清流として名高い河川、そして県南部は太平洋に面しており川や海での救急事案などもあります。

さて、高知医療センター救命救急センターは、救急科専任の医師だけでなく他科や多くの他部門の協力のもと、様々な疾患に迅速に対応できるように病院全体の協力体制で維持されています。また、その所在地も高知市の南方にある高知新港に近い高台に位置し、高知県ドクターヘリやRAPID CAR(欧州型ドクターカー：ラピッドカー)も配置されているため、所在地でもある高知市はもとより、高知県全域の広い範囲の救急患者に対応しています。ドクターヘリはその機動性から陸路搬送では救命困難な症例から、救急患者の長時間搬送を回避することで救命率からQOLの改善まで寄与できます。また、ドクターヘリには高知医療センターの医師だけでなく、高知大学医学部附属病院・高知赤十字病院・近森病院などに勤

務する救急診療に精通した先生方にもお手伝いいただき、高知医療センターだけでなく高知県内の急患対応が可能な病院でヘリポートと近い医療機関への搬送も行っており、まさに高知家として高知県全域の救急医療体制の維持に寄与しています。高知県ドクターヘリだけでは対応できない場合には、高知県消防防災ヘリも救急患者への対応に尽力していただき、互いに連携して可能な限りの救急患者へ対応するべく協力しています。RAPID CARは医師が直接、救急隊と同じ現場に出向き、現場からの医療サービスの提供を行うことで治療までの時間短縮が可能であり、事実近隣の市や遠くは室戸や梶原近隣まで出動したこともあり、今後ますますの活躍が期待されます。

本来ならば救急担当医師の活躍は喜ばしくはありませんが必要な医療と思っております。本年も地域医療に貢献すべく精進して参りたいと思ひます。

皆さま方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



## 総合周産期母子医療センター長 林 和俊

新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中には総合周産期母子医療センターの運営に関し多くの方々のご支援、ご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

当センターの位置づけは、高知県周産期医療の要(かなめ)ですが、分娩件数の増加(700件越え)に対応しきれず、分娩受け入れ制限をした時期もありました。その後、対応を進め、一昨年、産科、NICU、GCUの増床が完了しております。そして、昨年、ついに分娩件数は800件を超えましたが、入院制限を厳重に行うまでもなく、他院との連携で何とか切り抜けています。分娩件数の増加にはローリスク妊娠増加も背景にありますが、必ずしもローリスク妊娠はローリスク分娩とは言えないのが現状です。高齢妊娠や合併症妊娠などハイリスク妊娠・分娩は年々増加しています。ハイリスク分娩の増加は当然、NICU入院児の増加にもつながっており、センターの増床対応は間違いなかったと確信しております。各方面に感謝申し上げます。

また、昨年の特筆すべきことは、2012年から県全体で取り組んできた早産防止対策の結果が、本県の

周産期データが向上してきていることです。以前は周産期死亡率や早期新生児死亡率は全国平均より悪かったのですが、直近の2015年ではどちらも全国平均より良い結果となりました。行政のバックアップのもと、産婦人科医と小児科、新生児科、小児外科が一丸となって新しい生命を守ってきた結果だと思っております。

一昨年はチームSTEPPS研修、昨年は病院前妊産婦救護研修に取り組みました。今年は災害時の周産期医療体制やチーム医療の見直しなどが課題と考えています。

「高知家」の未来を担う大切な赤ちゃんの命を守り、そして赤ちゃんのご誕生を待ち望んだご家族に一層の幸せが訪れますよう、スタッフ一同、その役割を果たして参りますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



月	日	曜	高知医療センター イベント情報			
1月	13	金	<b>がんと生殖医療の接点 Oncofertilityを考える会</b> (参加費無料・事前申込不要)			
			内容	一般講演：当院における精子凍結の現況 特別講演：AYA世代がん患者に対する妊孕性温存療法の実践—その適応は？	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール
			時間	18:30～20:00	対象	医療関係者
			講師	一般講演：高知医療センター 母性診療部長 南 晋 特別講演：聖マリアンナ医科大学 産婦人科学教授 鈴木 直 氏		
	共催：高知県生殖医療懇話会 お問合せ：高知医療センター 総合周産期母子医療センター長 林 TEL:088(837)3000(代)					
	15	日	<b>高新・高知医療センターがんセミナー 2016</b> (参加費要・事前申込要)			
			内容	咽頭がん	場所	高新文化教室(RKC高知放送南館3階37号室)
			時間	10:30～12:00	対象	一般(40名)
			講師	高知医療センター 耳鼻咽喉科 医長 土井 彰		
	お問合せ：高新文化教室 TEL:088(825)4322 受講料 1,500円/1回					
	19	木	<b>高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修</b> (参加費無料・事前申込要)			
			内容	BLS/AED研修(ガイドライン2015)	場所	高知医療センター 2階 スキルズラボ室
時間			13:00～16:00	対象	看護師(3名)	
講師			高知医療センター BLSインストラクター			
参加ご希望の方はお問い合わせください お問合せ：高知医療センター 看護局 教育担当(野中、野田、藤本) TEL:088(837)3000(代)						
21	土	<b>平成28年度 全国自治体病院協議会 高知県支部研修会 病院事務職員 育成講座</b> (参加費無料・事前申込要(病院名・人数))				
		内容	第一部：経営仕事塾 第二部：経営実践講座	場所	高知医療センター 1階 研修室	
		時間	14:00～16:15	対象	病院事務職員	
		講師	地方独立行政法人 岡山市立総合医療センター 法人本部事務局長兼岡山市民病院事務部長 豊岡 宏 氏			
お問合せ・お申込み：高知医療センター 事務局 TEL:088(837)3000(代) (全国自治体病院協議会 高知県支部事務局)総務課 中村						
22	日	<b>高知医療センター看護局 第7回看護実践発表会</b> (参加費無料・事前申込要)				
		内容	基調講演：災害の備えは平時の看護実践能力	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール	
		時間	13:00～16:30	対象	看護師(50名)	
		講師	東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部看護学科/大学院 看護学研究科 石井 美恵子 氏			
参加ご希望の方はお問い合わせください お問合せ：高知医療センター 看護局 教育担当(野中、野田、藤本) TEL:088(837)3000(代)						
25	水	<b>第22回 高知医療センター 外科グループ手術症例検討会</b> (参加費無料)				
		内容	症例発表	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール	
		時間	19:00～20:30	対象	医療関係者	
お問合せ：高知医療センター 地域医療連携室 TEL:088(837)3000(代)						
2月	19	日	<b>高新・高知医療センターがんセミナー 2016</b> (参加費要・事前申込要)			
			内容	がん治療時の食事と栄養	場所	高新文化教室(RKC高知放送南館3階37号室)
			時間	10:30～12:00	対象	一般(40名)
			講師	高知医療センター 栄養局科長・管理栄養士 佐賀 啓子		
お問合せ：高新文化教室 TEL:088(825)4322 受講料 1,500円/1回						

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

## 編集後記

年末を迎え、慌ただしく1年が過ぎていこうとしています。今年を振り返ると熊本地震をはじめとする地震災害の頻発、英国のEU離脱、真夏日が連続し暑かった夏、リオオリンピックの開催、トランプ氏の大統領選勝利など想定外の出来事に驚かされることも多く、様々なところにその影響が及んできています。

個人レベルでも、いろいろなことが起こる中で、1年を何とか乗り切れてほっとする思いと、はや1年が過ぎてしまい、何ができたのだろうと反省の気持ちが入り混じる中で師走を迎え、新たな年に向けた心構えなどを考えなければなどと殊勝なことを思っていますが、何から始めればいいのか？

そうですね、今回の号では「新たな年が皆さまにとって、より良い年となりますよう祈念すること」からですね。  
(広報副委員長 岡崎)



平成29年1月1日発行  
にじ1月号(第135号)  
毎月発行  
編集者：広報委員会  
発行者：吉川 清志  
印刷：株式会社 高陽堂印刷

発行元：  
高知県・高知市病院企業団立  
**高知医療センター**

〒781-8555 高知県高知市池2125-1  
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp